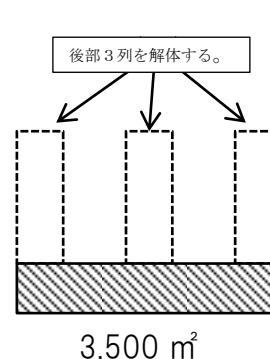


## 保存範囲について

第4回懇談会における意見を踏まえ、保存範囲は「全部保存」及び「正面部分の保存」に絞り込み、前回と同様に「公共建築物の保存・活用のガイドライン」を参考に4つの視点から意見を整理した。

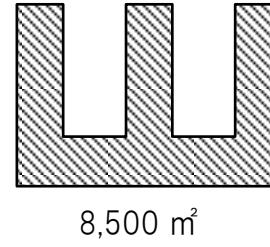
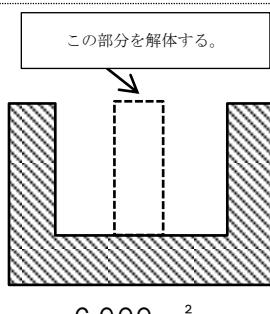
第4回懇談会で示した「正面部分の外壁のみを保存し、後部に建物を新築する」、「外壁の一部を象徴保存する」については、「被爆建物の中に入り、建物の歴史や被爆の実相を感じることができない」という主旨の意見が複数あったことから除外し、活用する建物の部分を保存することを前提とする。

その上で、市が施設整備した庁舎等の事例（参考資料1）を参考として、正面部分の建物の保存を基本とし、活用のための施設規模がさらに必要で、見込まれる事業費が確保できれば、保存範囲を拡げることとする。

保存範囲に係る意見の要旨	検討の視点及び評価(案)				
	保存範囲のイメージ	① 建物の歴史性の保存	② 建物の意匠の保存	③ 地域におけるシンボル性の保存	
「正面部分の保存」とする。 後部3列は解体する。	 3,500 m <sup>2</sup>	<input type="radio"/> 旧理学部1号館の一部を解体することになるが、被爆の実相を後世に伝えることができ、学都広島の象徴として保存できる。	<input type="radio"/> 特徴的な意匠である玄関回りを保存できる。	<input type="radio"/> 森戸道路から見える正面の象徴的な景観を保存できる。	<input type="radio"/> 「正面部分の保存」(3,500 m <sup>2</sup> )の場合 概算改修費 18.5 億円 【内訳】 耐震・中性化対策工事 6.4 億円 内外装・設備工事 10.3 億円 解体工事 1.8 億円



活用のための施設規模がさらに必要で、見込まれる事業費が確保できる場合は、保存範囲が拡がる。

<b>「全部保存」とする。</b>   8,500 m <sup>2</sup>	<input type="radio"/> 被爆の実相を後世に伝えることができ、学都広島の象徴として保存できる。	<input type="radio"/> 特徴的な意匠である玄関回りを保存できる。	<input type="radio"/> 森戸道路から見える正面の象徴的な景観を保存できる。	<input type="radio"/> 「全部保存」(8,500 m <sup>2</sup> )の場合 概算改修費 40.6 億円 【内訳】 耐震・中性化対策工事 16.0 億円 内外装・設備工事 24.6 億円
	 6,900 m <sup>2</sup>	<input type="radio"/> この部分を解体する。		<input type="radio"/> 「コの字型」(6,900 m <sup>2</sup> )の場合 概算改修費 33.4 億円 【内訳】 耐震・中性化対策工事 13.0 億円 内外装・設備工事 19.8 億円 解体工事 0.6 億円

※「土壤汚染対策」及び「建物部分以外の敷地整備」に係る経費は、建物部分以外の敷地整備などの内容により異なることから、算出していない。